

## 《単位互換提供科目詳細》

\* 科目 No. ◆0606

## 科目概要記入欄

1. 開設大学名	県立広島大学		科目開講 キャンパス	サテライト キャンパス		
2. 科目名	正式科目名	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅲ 《嚥下障害学－「食べる・飲み込む」 のリハビリテーションを科学する》			クラス名	
	副題				配当年次	3年
	旧科目名	発声発語・嚥下系障害学概論Ⅱ 発声発語・嚥下系障害学演習Ⅱ			受入学年	
	学問分野	番号	34	名称	保健（医学、歯学、薬学、 看護など）	
	サテライトで開講される科目の科目群			B群		
3. 担当教員名	矢守 麻奈 保健福祉学部コミュニケーション障害学科					
4. 単位数	2単位		5. 開講学期	前期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	26年8月9日（土）、16日（土）、23日（土）、9月6日（土） 土曜日 10：40 ～ 17：50					
個別開講日 （予定）	1回目 8/9	2回目 8/9	3回目 8/9	4回目 8/9	5回目 8/16	6回目 8/16
	7回目 8/16	8回目 8/16	9回目 8/23	10回目 8/23	11回目 8/23	12回目 8/23
	13回目 9/6	14回目 9/6	15回目 9/6	16回目 9/6	試験日	/
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」（リハビリテーション、言語聴覚障害に関する基礎的知識）					
8. 募集人数 （総授業定員）	50人 （50人）		9. 定員超過時の 選考方法	医療・保健・福祉系職員・学生を 優先		

10. 科目内容・授業計画	<p>&lt;科目内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食嚥下に関する器官の解剖・生理、性差、年齢変化について理解する。</li> <li>2. 摂食嚥下障害の原因疾患、病態、影響について多面的に理解する。</li> <li>3. 摂食嚥下障害に影響する高次脳（認知）機能障害について理解する。</li> <li>4. 種々の摂食嚥下機能検査について、それぞれの特性、適応、技法、解析方法を修得する。</li> <li>5. 種々の基礎的嚥下訓練（間接訓練）・摂食訓練（直接訓練）法についてそれぞれの適応、技法、リスクを修得する。</li> <li>6. 加齢、治療・服薬内容、高次脳機能障害、気管切開・人工呼吸器管理、口腔衛生、味覚・嗜好変化、誤嚥・窒息時の対応等、訓練実施時の留意点について理解・修得する。</li> <li>7. 摂食嚥下リハビリテーションにおける職種間連携、施設間連携について理解する。</li> </ol> <p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食嚥下器官の解剖・生理：先行（認知）期・口腔準備（咀嚼）期に関する器官と神経機構</li> <li>2. 摂食嚥下器官の解剖・生理：口腔期・咽頭期・食道期に関する器官と神経機構</li> <li>3. 摂食嚥下機能の年齢的变化、性差（小児、成人～高齢者）</li> <li>4. 摂食嚥下障害の発症機序：原因疾患、薬剤・呼吸機能の影響</li> <li>5. 摂食嚥下障害の発症機序：高次脳機能・姿勢保持機能の影響</li> <li>6. 摂食嚥下障害の影響：誤飲、窒息、誤嚥、誤嚥性肺炎、低栄養、褥瘡 等</li> <li>7. 摂食嚥下リハビリテーションにおける言語聴覚士の役割</li> <li>8. 言語聴覚士が行う検査と評価、病態診断：情報収集</li> <li>9. 言語聴覚士が行う検査と評価、病態診断：理学的所見、冷却刺激、RSST 等</li> <li>10. 言語聴覚士が行う検査と評価、病態診断：演習</li> <li>11. 医師と行う検査と評価：内視鏡、造影検査 等</li> <li>12. 内視鏡・造影画像の解析、誤嚥のタイプ分類</li> <li>13. 内視鏡・造影画像の解析：演習</li> <li>14. 基礎的嚥下訓練（間接訓練）、適応とリスク</li> <li>15. 基礎的嚥下訓練（間接訓練）：演習</li> <li>16. 摂食訓練（直接訓練）：代償嚥下、代償姿勢</li> <li>17. 摂食訓練（直接訓練）：食物形態、一口量、経口摂取回数調整</li> <li>18. 摂食訓練（直接訓練）：演習</li> <li>19. 代替栄養法について</li> <li>20. 摂食嚥下障害に対する歯科治療</li> <li>21. 摂食嚥下障害に対する医科治療：薬物治療、外科治療</li> <li>22. 予後予測、患者・介護者に対するカウンセリング、介護者指導</li> <li>23. 職種間連携、施設間連携、医療保険・介護保険における摂食嚥下リハビリテーション</li> <li>24. 悪性腫瘍術後の摂食嚥下リハビリテーション—頭頸部腫瘍を中心に—</li> <li>25. 進行性疾患における摂食嚥下リハビリテーション</li> <li>26～30. 症例検討演習</li> </ol>		
11. 試験・評価方法	予習・復習の状況、授業態度、レポート、小テスト、終了時試験等を総合的に評価し、判定する。		
12. 別途負担費用	特になし		
13. その他特記事項			
14. サテライト科目の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	㊦	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	㊦	否